

	デジタルフェイスボウトランスファーを行い、 All-on-4concept にて咬合再構成を行なった 1 症例
浅賀勝寛	埼玉県開業
キーワード：デジタルフェイスボウトランスファー、All-on-4concept、イミディエート	
<p><b>I. はじめに</b>                  現在、ボーンアンカードブリッジタイプのインプラント上部構造を持つインプラントの長期安定のために審美性、清掃性、機能性は天然歯同様に重要な要素である。                  今回、All-on-4concept のインプラント上部構造に対し、セカンドプロビジョナルレストレーション(以下、SPVR)にて審美性、清掃性、機能性の確認を行った。その後、ファイナルレストレーション(以下、FR)に精密にトランスファーし良好な結果を得ることができたので報告する。</p> <p><b>II. 症例の概要</b>                  患者：66 歳，男性。                  初診：2015 年 10 月                  主訴：歯がぐらぐらして食事が出来ない。                  全身的既往歴：特記事項なし                  歯科的既往歴：歯科医院に行くのは 10 年ぶりとのこと，歯の動揺には気づいてきたが痛みもなく不便していなかったが，最近動揺がひどくなり来院。                  診査初見：PCR：100%，PPD：4<sup>~</sup>6mm：37.6%，7mm<sup>~</sup>：48.8%，BOP：71.0%，全顎的に歯の動揺，排膿が見られた。</p> <p><b>III. 診断名</b>                  広汎型・慢性歯周炎・ステージⅢ・グレード C</p> <p><b>IV. 治療計画</b>                  ①歯周基本治療(プラークコントロール指導，SRP，)/②再評価/③歯周外科処置(歯周組織再生療法)/④再評価/⑤口腔機能回復治療(インプラント治療，矯正治療)/⑥SPT</p> <p><b>V. 治療経過</b>                  歯周基本治療にて炎症の除去を行った後，術前にフェイシャルパターン，リップサポート，リップライン，スマイルライン，骨吸収量，咬合高径を確認した。2016 年 6 月静脈内鎮静法下にて抜歯即時埋入，即時荷重を All-on-4concept に準じて行った。SPVR にてインサイザルエッジポジションを基準に審美性の確認，粘膜面をシャローオベイトにすることで清掃性の確認，下顎残存歯のレベリングを行い，アンテリアガイダンス，アンテリアカップリングを調整し，SPVR の咬合様式が顎関節機能に異常をきたさないことを確認した。その後，KaVo プロターevo7 に歯牙誘導(中間(CE)，左右 FTI)，左右顎関節(HCN(CE)，Benetton, ISS, シフト角)をアルクスディグマにてデジタルフェイスボウトランスファーし，チタンフレームにジルコニアを合着した上部構造を 2017 年 2 月スクリーリテインにて装着した。</p> <p><b>VI. 考察およびまとめ</b>                  今回，All-on-4concept を行うにあたり SPVR にて審美性，清掃性，機能性を確認した。また下顎の残存歯をレベリングすることで，理想に近い状態の咬合様式を与えた。SPVR の状態を KaVo プロターevo7 にトランスファーをすることで FR の長期安定が期待でき，高い患者満足度を得ることができた。広汎型・慢性歯周炎・ステージⅢ・グレード C の患者に対して All-on-4concept を行い，SPVR を適確に調整，トランスファーすることで患者満足度を含め良好な結果が得られることが示唆された。</p>	
<p><b>略歴</b>                  2013 年 日本大学歯学部卒業                  2014 年 医療法人寛友会 浅賀歯科医院 勤務                  資格・役職                  2020 年 公益社団法人日本インプラント学会 専門医                  2020 年 一般社団法人ジャパンオーラルヘルスケア学会 予防歯科認定医                  2022 年 日本歯周病学会 認定医</p>	